

平成29年度

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	公共下水道浸水対策事業			事業番号	15-104
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	土木部下水道担当	石塚俊彦	下水道整備課	芦川友広	

計 画 (Plan)							
総合計画体系	安心力	まちづくり目標	2	地域で助け合う安全で安心なまち			
		基本政策	4	災害に強い安全なまちづくり			
		施策展開の方向	1	災害から市民の命を守るまちをつくる			
		施策	15	被害を最小限に抑える減災対策の推進			
予算事業名	第2号公共下水道施設維持管理費		第3号公共下水道管渠整備事業費				
事務区分〔選択〕	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務 (選択してください)→			法令上の位置づけ	実施する規定はない		
事業開始年度	開始年度	平成25年度以前 ～		終了年度	—		
関連法令等	—						
国・県の計画等	社会資本整備総合交付金			計画期間	—		
関連個別計画	—			計画期間	—		
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	近年の集中豪雨の多発や都市化の進展に伴い、短時間に大量の雨水が流出し、内水氾濫の被害が増大している。						
目 的 (何をどうしたいのか)	都市浸水被害の軽減を図り安全・安心を確保するため、雨水浸水対策事業を進める。						
主な対象 (誰・何を対象に)	内水氾濫の被害が頻繁に発生している3地区(沼目、石田、矢羽根川流域地区)						
事業内容 (手段、手法など)	・沼目地区の雨水渋田川第4幹線整備の早期完成を目指すとともに、石田地区の整備工事及び板戸地区の調査を行い、浸水軽減対策を進めます。 ・また、矢羽根川流域地区の浸水軽減対策について、事業を進めます。						
事業行程	項目		年度				
			28年度	29年度			
	沼目地区(渋田川第4排水区)		工事実施	—			
	石田地区(歌川14排水区)		14-1東側整備工事	—			
	板戸地区(板戸川第1排水区)		—	1-1基礎調査			
	矢羽根川流域地区(矢羽根排水区)		1-1整備工事 調査業務	用地買収			
目 標	【指標名】		年度				
			28年度	29年度			
	浸水対策整備済み地区数		1地区	3地区			



事業実施(Do)へ

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)	主に、沼目地区(渋田川第4排水区)の雨水幹線整備を進め、浸水被害の軽減を図る。また、矢羽根川流域地区の自然型調整池の設置箇所の確定を図る。			
実施方法 〔選択・記入〕	☒ すべて直接実施 ☐ 左記以外			
	☐ 業務委託	☐ 指定管理	委託先又は指定管理者	
	☐ 補助金		補助先	
	☐ その他		具体的内容	
実施結果	項目		年度	
			28年度	29年度
	沼目地区(渋田川第4排水区)		工事実施	
	石田地区(歌川14排水区)		14-1東側整備工事	
	板戸地区(板戸川第1排水区)		—	
矢羽根川流域地区(矢羽根排水区)		1-1整備工事		
実施した取組の内容	沼目地区(渋田川第4排水区):雨水渋田川第4幹線整備工事(U1100×1100 L=59.0m) 石田地区(歌川14排水区):石田地区浸水防除工事等(排水ポンプ設置等) 矢羽根川流域地区(矢羽根排水路):雨水矢羽根第1-1幹線整備工事(φ1500 L=56.8m)			
目標の達成状況	【指標名】		年度	
		【現状】	28年度	29年度
	浸水対策整備済み地区数	1地区	2地区	

コスト	年度		28年度 実績				29年度 実績			
	事業費合計 (a)		103,468		千円			千円		
	内訳	国県支出金 ①	24,800		千円			千円		
		地方債 ②	70,100		千円			千円		
		その他特財 ③	0		千円			千円		
		一般財源 (a)-①-②-③	8,568		千円	0		千円		
	国県支出金の内容		社会資本整備総合交付金 補助率1／2							
	その他特財の内容	受益者負担	☐ 有 ☒ 無		前回の改定時期					
		その他								
	人件費	正規職員	1.31	人	11,332	千円		人		千円
		その他の職員	0	人	0	千円		人		千円
		人件費合計 (b)	1.31	人	11,332	千円		人		千円
	トータルコスト (a)+(b)		114,800		千円				千円	
	単位当たりコスト	対象数	定義	1地区工事／年		単位			単位	
			対象数	3		地区工事				
			総事業費／対象数	38,266,667		円			円	

評価 (Check)へ

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	☒ 計画どおり (A) ☐ 概ね計画どおり (B) ☐ 計画どおり進捗せず (C)	A	左記判断理由	雨水渋田川第4幹線整備事業については、完了することができた。
実施水準 〔選択・記入〕	☐ 他市より高い水準で実施 (A) ☐ 他市と同水準で実施 (B) ☐ 他市より低い水準で実施 (C) ☒ 一律に比較できない事業	—	他都市の事業内容等	各自治体で浸水被害が異なるため、一律に比較できない。
有効性 〔選択・記入〕	☒ 高い (A) ☐ 普通 (B) ☐ 低い (C)	A	左記判断理由	市民の安全・安心を確保するための事業であり、目的を達成することで市民の浸水被害軽減が見込まれる有効性の高い事業である。
効率性 〔選択・記入〕	☒ 効率的に実施されている (A) ☐ 改善の余地がある (B) ☐ 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記判断理由	浸水被害を軽減し市民の安全・安心を図るため、計画的に効率の良い事業が実施された。



取組の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	☒ 現状のまま継続 ☐ 見直しの上継続	事業推進上の課題	矢羽根川流域地区(矢羽根排水区)の調整池に係る用地取得を着実にを行う必要がある。
次年度取組方針		矢羽根川流域地区(矢羽根排水区)の調整池整備に伴う詳細設計及び用地の取得を行う。板戸地区の浸水対策実施に向け、基礎調査を行う。		
所管部長による総評		近年の異常気象による局所的な豪雨や土地利用の変化から雨水の流出量が増加するなどにより、浸水被害が拡大する状況にある。市民の生命・財産を守るため、計画的な浸水軽減対策を実施する必要がある。なお、浸水被害の軽減には、被害箇所の状況を調査し、その場所に応じた対策が必要であるため、十分に検討し対策を進める必要がある。さらに、広域的な浸水被害地区については、河川管理者や近隣市と連携を図る必要もある。		